

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第5号 (2000年10月1日発行)

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00001956 |

季刊 国立国語研究所
広報誌

国語研の窓

もくじ

| | |
|--|-----|
| 連載 暮らしに生きることば⑤ | P.1 |
| 刊行物紹介 新「ことば」シリーズ11 『豊かな言語生活のために』 新「ことば」シリーズ12 『言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』 | P.2 |
| 終了報告 ことばフォーラム | P.3 |
| 研究成果の紹介 日本語と外国語の対照研究シリーズ | P.4 |
| 調査紹介 「国語に関する世論調査」の問題別分析 | P.5 |
| 外国での研究生活 中国外来語事情 | P.6 |
| ことばQ&A 表紙のことば | P.7 |
| 国際シンポジウムのご案内 「ことばフォーラム」のご案内 所内見学 | P.8 |

平成12年10月1日 第5号

発行 国立国語研究所
The National Language Research Institute
編集 国立国語研究所企画広報委員会
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530
URL <http://www.kokken.go.jp/>



連載第5回 暮らしに生きることば



最近若者を中心に、「何気に」という表現をよく耳にします。もとは「何気なく」で、「(何とって)はっきりとした目的や意図のないこと」という慣用句です。本来ですと後半の否定形の「なく」の部分をとってしまうと、意味は逆に「わざと、わざとらしく」となってしまふところですが、現在流行の使い方では、否定形部分を省略した「何気に」の形で「わざとらしくなく、それらしくなく、さりげなく」という意味に使われています。

似たようなことでは、「気が置ける」(遠慮が必要だ)と「気の置けない」(遠慮がいらぬ)の本来の使い方が誤用され、「気の置けない」(安心できない、気がゆるせない、打ち解けることができない)という使い方が多く見られるようになったことがあげられます。

これらの語形や意味の混乱には、いずれも、否定形を含むと、悪い意味や否定的な言い回しに感じられる、という錯覚がかかわっているようです。

ただし、すべての否定的な言い回し表現の否定形

が省略されるわけではありません。たとえば「やぶさかでない」という句が、数年前、テレビの人気出演者が使って一時的に流行しかかったことがあります。この場合は終始「努力を惜しんだり、ためらったりしない」という本来の意味で使われ、「やぶさかに・やぶさかだ」というような否定形を省いた言い回しにはなりません。

特殊なことばでは、「端倪(タンゲイ)すべからざる」という表現があげられます。文字通りの意味は「予想・予測ができない」という意味で、「フランス人は思いがけない発想の転換ができる端倪(タンゲイ)すべからざる存在だ」とか「端倪(タンゲイ)すべからざる感性」などと、時には誉めことばにも使われます。ところが、実際の言語生活では、誉めことばには適さないのではないか、という質問がよせられたり、「端倪(タンゲイ)すべき素顔にせまる」というように、否定形部分が省略された誤用例もできました。

刊行物 紹介

【国立国語研究所編】

■新「ことば」シリーズ11 『豊かな言語生活のために』

■新「ことば」シリーズ12 『言葉に関する問答集—言葉の使い分け—』

(どちらも、平成12年7月、大蔵省印刷局発行、A5判96ページ、定価360円(税別))



● ふだんの暮らしの中で、言葉について気になったり、疑問に思ったりした経験はありませんか。またそれをきっかけに、自分で言葉について考えたり、人と話し合ったりすることはないでしょうか。新「ことば」シリーズは、そんな時に手に取って、参考としていただけるように、言葉に関するいろいろなテーマについて、わかりやすく解説するシリーズです。10号までは、文化庁国語課が作成してきましたが、今回刊行したシリーズ11・12からは、国立国語研究所が編集を行うことになりました。刊行は年1回です。

● シリーズ11では、「豊かな言語生活のために」をテーマに取り上げました。一口に「豊かな言語生活」と言っても、人によって、「他人とのコミュニケーションが上手にできる」「正しく美しい日本語が使える」「感情が豊かに表現できる」「言葉に関する知識が豊富である」など、いろいろな考え方があってと思います。これらはどれ一つを取っても大切なことですが、では、このように多様な広がりを持つ「豊かな言語生活」を、バランスよく実現するためには、日常生活の中でどのようなことに目を向けたらいいのでしょうか。このことについて、身の回りの言葉のいろいろな面を取

り上げて考えていきます。

● シリーズ12は「言葉の使い分け」がテーマです。「気持ちの込め方によって声の調子はどのように変わる?」「『にぎやかだ』と『やかましい』の違いは?」「男性と女性の言葉はどういうところに違いがある?」「『コンピュータが立ち上がる』』という言い方をするのはどんな人?」「改まった時とふだんの時の言葉遣いはどう違う?」など、「言葉の使い分け」に関わる30の間に、1問1答の形式で解説を加えています。また巻末には、最近の国立国語研究所の調査研究の結果の一部を「参考資料」として付し、コンパクトな解説付きのデータ集として利用できる形で紹介しました。

● このシリーズは、各都道府県教育委員会と知事部局のご協力を得て、全国のすべての小学校、中学校、高等学校等の学校と、公立図書館、公民館等の社会教育機関に無償で配布されています。また、市販もしておりますので、ご希望の方は、政府刊行物サービスセンターでお求めになるか、一般の書店でご注文ください。

この冊子を手にとって、ぜひ、言葉について考えるおもしろさを味わってみてください。

新「ことば」シリーズ11

豊かな言語生活のために



国立国語研究所

【内容】座談会 豊かな言語生活のために(内田伸子・陣内正敬・橋元良明・甲斐睦朗)
解説 言葉って何だろう一人間にとって、人間の生活にとって(相澤正夫) / 「ことばのしくみ」について考える(井上優) / 文字と暮らし(横山詔一・笹原宏之) / 日本語の中の多様性(三井はるみ) / 教室の談話(當真千賀子)

新「ことば」シリーズ12

言葉に関する問答集

—言葉の使い分け—



国立国語研究所

【内容】言葉に関する問答集 [問1] 「言葉を使い分ける」としばしば言います。これはどんな範囲のどんな内容のことを言うのでしょうか。～ [問30] 相手によって言葉遣いがいろいろに変わります。相手による敬語の使い分け以外にどんなことがありますか。
参考資料 国際社会における日本語についての総合的研究/日本語の多様性に関するアンケート調査/テレビ放送の語彙調査

(新「ことば」シリーズ編集刊行委員会)

終
報
了
告

ことばフォーラム

平成 12 年 8 月 8 日 (火)
国立国語研究所講堂



「放課後の漢字」

笹原 宏之 (言語体系研究部主任研究官)
横山 詔一 (情報資料研究部主任研究官)

学校の国語の時間には、1900種類以上の新出漢字を勉強しますが、日常生活の中では、それ以外の漢字を目にすることもあります。それらについて、写真やコピーを見ながら、観察してみました。文学作品には、「鏡」を4つ集めた76画にのぼる「漢字」が使われているなど難しい字が多いのですが、書籍以外でも、変わった漢字は目に入ります。多くの新聞では、「餃子 (ギョーザ)」の「餃」の字体が省略されていますし、看板では「曜日」の「曜」の字が「日」偏に「玉」となっているものが少なくありません。テレビには、「草薨 (なぎ)」の「薨」のように大きな漢和辞典になかったものも登場しますし、漫画にも「儂 (わし)」のような漢字が出現します。

最後に、漢字についての心理学実験を参加者に体験してもらいました。「桧-檜」のような漢字のペアを見て、「どちらの字体がより好きか」を判断してもらうというアンケート形式の簡単な実験です。この結果から、参加者は無意識のうちに目にしてある漢字の字体から予想以上の強い影響を受けていることを実感したのではないかと思います。

出席者からの質問には、漢字に対する一般の関心の高さがよくうかがえました。

「話しことばの秘密」

前川 喜久雄 (言語行動研究部 第二研究室長)

話しことばは音声、書きことばは文字を利用してそれぞれ伝達されます。このことはよく知られているでしょう。

しかし、音声と文字では、伝達される情報の中身にも違いがあることは、あまり気づかれていないのではないかと思います。話しことばでは、書きことばが伝達する言語情報にくわえて、性別や年齢など、話し手の身体に関する情報、さらには話し手の心的態度に関する情報も伝達されます。

前者は非言語情報、後者はパラ言語情報と呼ばれています。書きことばが言語情報という1チャンネルだけのモノラル放送であるのに対して、話しことばは言語情報とパラ言語情報および非言語情報というふたつのチャンネルをもつステレオ放送なのです。話しことばでは何故ステレオ放送が可能になるのか理解するためには、人間がどうやって音声を生成しているかを理解しなければなりません。

今回のフォーラムでは、音声の生成メカニズムを生理学的な観点から解説し、言語情報が、舌・顎・唇など、喉頭上部の音声器官に強く依存して生成されること、一方、パラ言語情報(と非言語情報)は、喉頭に位置する声帯に強く依存して生成されること、そのため、両方はほぼ独立に制御することができ、上述のステレオ放送が可能になることを、計算機による合成音声のデモンストレーションなどもまじえて解説しました。



日本語と外国語との対照研究シリーズ

日本語と外国語は、どこが似ていて、どこがどのように違うのでしょうか。言語と言語の比較対照は、音声、語彙、文法、意味、文字・表記、会話の仕方、ことばに伴う身振り、ことばの背景にある発想法など、いろいろな面について行うことができます。日本語と外国語を対照しながら研究することで、日本語だけを見ていた時には気づかなかった特徴や、他の言語とも共通する点など、日本語についてより多くのことがわかってきます。また、たとえば日本語とスペイン語の相違点がわかれば、日本人がスペイン語を学習する時に、またスペイン語を母語とする人が日本語を学習する時に、どのようなことが難しそうか、どのような点に気をつければ効果的に学習できるか、予測することも可能です。

日本語と外国語の違いからくる具体的な例を一つみてみましょう。たとえば、ピアノを部屋に運び入れようとしたけれど、大きすぎて無理そうだという時、なんと言うのでしょうか。日本人なら、「このピアノは（大きくて）入らない」と言うでしょう。しかし、日本語を勉強中の中国の人の場合、「このピアノは入れない」と言うことがあります。中国語ではそのような言い方をするからです。

国立国語研究所日本語教育センターでは、これまでに英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、タイ語、インドネシア語、中国語、朝鮮語などの諸言語と日本語との対照研究を行い、以下の報告書を刊行しています。

『日独仏西基本語彙対照表』

(国研報告88, 1986, A4判 8755円 秀英出版)

<日本語と外国語との対照研究シリーズ>

(いずれもくろしお出版)

I 『日本語とスペイン語 (1)』

(1994) A5判 3800円

II 『マイペンライ —タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その1—』

(1995) A5判 3835円

III 『日本語とポルトガル語 (1)』

(1996) A5判 3000円

IV 『日本語と朝鮮語』 上下巻

(1997) A5判 上巻2500円 下巻4500円

V 『日本語とスペイン語 (2)』

(1997) A5判 3500円

VI 『日本語とスペイン語 (3)』

(2000) A5判 3500円

VII 『日本語とポルトガル語 (2)』

(2000) A5判 4200円

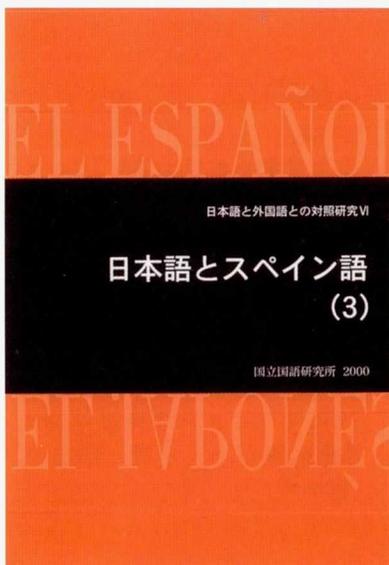
今後、刊行が予定されているものに、次の3冊があります。

VIII 『マイペンライ その2』

IX 『日本語とフランス語 —音声と非言語行動—』 (仮題)

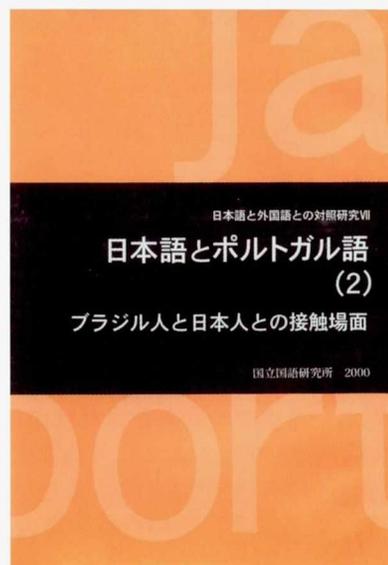
X 『対照研究と日本語教育』 (仮題)

※ () 内は発行年、値段は本体価格です。



日本語と外国語との対照研究VI
日本語とスペイン語 (3)

国立国語研究所編
くろしお出版発行
平成12年3月刊
A5判 3500円



日本語と外国語との対照研究VII
日本語とポルトガル語 (2):
ブラジル人と日本人との接触場面

国立国語研究所編
くろしお出版発行
平成12年3月刊
A5判 4200円

調
紹

査
介

「国語に関する世論調査」の問題別分析

言語変化研究部長 吉岡 泰夫

「国語に関する世論調査」は、文化庁文化部国語課が平成7年度から毎年度実施しているものです。現代の社会状況の変化にともなって、日本人の国語意識はどうなっているかを調査し、国語施策の参考にすることを目的としています。全国16歳以上の男女を母集団として3,000名を無作為抽出し、毎年度2,200名前後の有効回答数を得ています。

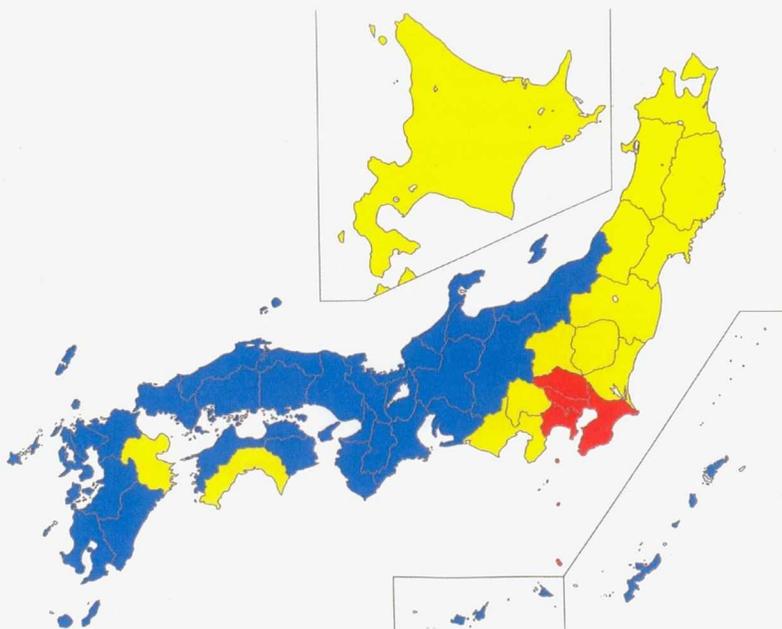
国立国語研究所では文化庁文化部国語課の依頼を受

けて、平成7年度から10年度までの4回分の調査データをもとに、問題別に分析を行いました。その問題は、大きく分けて、敬語を中心とすることば遣いの問題、情報機器の字体の問題、国際社会への対応の問題の三つです。これらは国語審議会の課題と対応しており、分析結果をまとめた報告書を、国語審議会に提出しました。そのうち、敬語を中心とすることば遣いについての分析結果の一部を紹介します。

円滑なコミュニケーションのための敬意表現に地域差・社会差

■「〇〇さん、おりましたらご連絡ください」は、気になるか、気にならないか？

「おりましたら」は尊敬語を使わない言い方です。方言敬語が多彩な地域（地図の青色）では「気になる」人が約7割であるのに対し、方言敬語が簡素な地域（地図の黄色）では逆に「気にならない」人が約6割です。首都圏（地図の赤色）では半々に分かれています。地域社会の言語環境が規範意識に影響を与えて、大きな地域差を生じています。



■「うちの子におもちゃを買ってやりたい／あげたい」ふつうに使うのはどちら？

「あげたい」を使う人は、首都圏で51.4%、10代女性で71.4%です。首都圏や若い女性の流行語とも言うべき様相を呈しています。一方、「やりたい」を使う人は、方言敬語が多彩な地域で約7割を占めています。この地域では「あげる」を謙譲語とする規範意識が保たれているために、「あげたい」を不適切な言い方と感じるのです。

■目上の人に「今すぐ食べるか」と聞くと、どんな言い方をするか？

方言敬語が簡素な地域では「食べますか」という尊敬語を使わない言い方が多くなります。一方、首都圏では「召し上がりますか」、方言敬語が多彩な地域では「食べられますか」「召し上がりますか」という尊敬語が多く使われています。また、「お召し上がりになりますか」という二重尊敬は首都圏で多く使われています。これは敬語の使い過ぎの誤りと感じる人が少なくないものです。

このように、居住する地域や所属する社会によって、敬語の使い方や、規範意識には違いがあります。さまざまな対人関係の場面で、円滑なコミュニケーションを行うには、敬意表現の多様性についての理解が各地域・各社会層に行き届いて、お互いに受容し合えることが望ましいと考えられます。相互理解は、多言語多文化の人々が共生できる社会を実現する上で不可欠のことです。



中国外来語事情

日本語教育センター第四研究室 井上 優

昨年9月から今年7月まで、北京外国語大学にある北京日本学術研究センター派遣教授として北京に滞在しました。滞在中に見聞きしたことがらのうち、今回は中国の外来語事情について紹介します。(“ ”内は中国語。便宜上、中国語も日本の漢字で表記します。)

中国は漢字の国です。日本語の仮名のように音だけを表す文字はありません。そのこともあって、外来語を取り入れる場合には、漢字の意味を利用した意識語をつくるのがごく普通におこなわれます。例えば、“電腦”(コンピュータ)、“伝真”(ファクス)、“互聯網”(インターネット)、“機器猫”(「ドラえもん」の中国名：“機器”は機械の意)といった具合です。“硬盤”(ハードディスク)、“熱狗”(ホットドック)、“微軟”(マイクロソフト社の中国名)のような直訳的なものもあります。

もちろん、すべての外来語が意識というわけではなく、“可樂”(コーラ)、“沙發”(ソファー)、“奔馳”(ベンツ)、“卡拉OK”(カラオケ)など、漢字の音を利用した音訳語もかなりあります(“可樂”“奔馳”などは漢字の意味を利用した一種の言葉遊びになっています)。人名や地名も、漢字で書かれるものを除き、基本的に音訳です。おもしろい例としては、香港から入った若者語の“酷”があります。これは英語の cool の音訳で、「りりしくて格好いい」「いかす」という意味です。“酷酷酷!”と文字が並んだ広告もありました。とはいえ、全体としては音訳語は少数派であり、日本語のように何でもカタカナで音訳してしまうのとはかなり趣が異なります。特に、専門用語は大部分が意識であり、日本のように公共の文書にカタカナ語が並ぶということはありません。

このように言うと、「外来語が氾濫している日本は中国を見習うべきだ」と思われるかもしれませんが。確かに外来語の過剰な使用は滑稽ですが、かといって、日本語に中国語の真似ができるわけではありません。例えば、いかにドラえもんが‘ネコ型ロボット’だとい

っても、「機械猫」ではアニメの主人公の名前にはならないでしょう(最近、“哆啦A夢”が新しい中国語名として発表されました)。「マイクロソフト」「ホットドック」をそのまま“微軟”“熱狗”と直訳する感覚も日本語にはないものでしょう。‘ハードディスク’のような特定の機器の名称として、“硬盤”のようないかにも一般名称的な語を用いるというのも、日本語では意外に難しいものです。“因特網”(インターネット)のように語の一部だけを音訳することも日本語では困難です(「インター網」では何とも不自然)。言語は、音・文字・文法・意味などの要素が微妙なバランスで結びついたものであり、そのバランス感覚は言語によって異なります。外来語の受容もそれぞれの言語のバランス感覚に基づくものですから、外国語のやり方を見習うといっても、おのずと限界があるのです。

中国語外来語クイズ(1~9は意識, 10~19は音訳, 20は意識と音訳の混合)

- | | | | |
|-------------|----------------|---------|--------|
| 1. 電梯 | 2. 軟盤 | 3. 超市 | 4. 熱線 |
| 5. 收音機 | 6. 隨身聽 | 7. 維生素 | |
| 8. 南天群星 | 9. 大衆(自動車メーカー) | | |
| 10. 黑客 | 11. 伊妹兒 | 12. T 恤 | 13. 托福 |
| 14. 烏冬麵 | 15. 保齡球 | 16. 奧特曼 | |
| 17. 三得利(企業) | 18. 舒波樂啤酒(商品) | | |
| 19. 克林頓(人) | 20. 劍橋(都市) | | |

- (答) 1. エレベータ, 2. フロッピーディスク, 3. スーパーマーケット, 4. ホットライン, 5. ラジオ, 6. ウォークマン, 7. ビタミン, 8. サザン・オールスターズ, 9. フォルクスワーゲン (Volkswagen: ドイツ語で「民族車, 大衆車」), 10. (コンピュータ) ハッカー, 11. Eメール, 12. Tシャツ, 13. TOEFL, 14. うどん, 15. ボウリング, 16. ウルトラマン, 17. サントリー, 18. スーパードライ・ビール, 19. クリントン, 20. ケンブリッジ



「ご逝去」は二重敬語か？

Q

質問 6月に皇太后さまがお亡くなりになった時、新聞各社の見出しには「ご逝去」という単語が使われていました。しかし、国語辞書には「逝去」とは「『死ぬ』の敬語」と説明されています。ということは、敬語に「ご（御）」をつけた「ご逝去」という単語は二重敬語ということになるのでしょうか。

A

回答 ご指摘のとおり、「ご逝去」は二重敬語ですので、本来はあやまりということになります。しかし、新聞各社が「逝去」に「ご」をつけたというのも、理由がないわけではありません。

もともと「逝去」という単語は昔の中国で作られた「漢語」です。中国語では日本語のように敬語が多く使われませんので、「逝去」という単語だけでも、高い敬意を表わしていました。このことは、公文書を漢文で書いていた昔の日本でも同じことでした。

しかし、漢文は日本で使われているうちに日本化して、「変体漢文」として発達しました。変体漢文では日本語特有の敬語表現が多用されますが、そのようななかで「逝去」という単語だけを使っていたのでは、なにか敬意がたりないように感じてきたのです。特に、社会的な地位がとて高い人が亡くなった時に「逝去」だけを使うのは失礼だという意識が生まれ、「御逝去」という単語が使われるようになりました。室町時代に書かれた『太平記』には「將軍御逝去の事」という用例が見られますので、500年以上も前から日本人に支持されつづけてきた、伝統的な表現だということがわかります。

二重敬語には、そのほか「ご芳名」や「ご令息」などもありますが、やはり同じ判断が働いて「ご」が付けられたのです。

ことばというものは、ある特定の言語社会で意思伝達するために使われるわけですが、社会の変化にともなって、意思伝達になんらかの支障が生まれるようになると、人間はことばを変化させることによって、支障を取り除いてきたのです。そのため、本来はまちがいとされてきた表現でも、そのまま新しい表現として定着することも珍しくありません。

とすれば、「ご逝去」という単語が意思伝達するうえで一番ふさわしいと考えた新聞各社の判断はそれはそれで尊重されるべきだと思います。

表紙のことば

国立国語研究所は、昭和23年12月20日の創立以来、何度か移転・改築を続けてきました。研究所は数年後に立川市に移転することになっています。そこで、立川移転までの間、本号から毎年1号くらいの割で、かつての棲家を追ってみることにしました。現存がしらない私にとっては、ちょっぴり不安であり、また楽しい試みといえます。本号では第1回目として、かつて分室として使用された、東京都三鷹市の旧山本有三邸を取り上げました。

研究所は創立当初、明治神宮所有の聖徳記念絵画館の一部を借用していましたが、仕事が進むにつれ手狭になったため、山本有三邸を分室として借用しました。山本有三氏は、戦後、日本国憲法の口語化や当用漢字の制定に携わり、参議院議員として国語研究所の創立にも尽力なさいました。昭和26年12月、山本邸が進駐軍の接収を解除されると同時に、研究所分室として提供され、研究所の一部（当時の研究第二部）が昭和28年3月まで仕事をしました。

当時分室で仕事をしていた先輩の話によれば、その頃、研究所の首脳部は、研究所の拠点をどこに置くかについて検討し、将来の研究所のことを考え、いろいろ悩んだようです。山本邸も候補の一つだったようです。もし、ここが拠点となっていたら、その後の国語研究所はどのように展開していたのでしょうか。

この建物は、現在、三鷹市山本有三記念館（市の指定文化財＜重宝＞）として公開され、地元の人達や文学散歩を

楽しむ人達に親しまれています。大正末期の本格的な洋館であり、建築に興味を持つ人達も訪れるようです。

作家・有三は、昭和11年から21年までここで暮らし、その間に「路傍の石」「ストウ夫人」などの作品を書きました。また、近所の子ども達に蔵書を開放しました。出入りには南面のテラスが使われ、読書会には紅茶の楽しみもあったようです。



庭から建物南面（現在）を望む

三鷹市山本有三記念館
東京都三鷹市下連雀2-12-27

記念館開館にあたり、接収時代に塗られたペンキをはがしたり、マントルピースを修理したり、改修が行われました。記念館の方にうかがった話では、技術的に復元が難しいところもあるが、有三居住当時の雰囲気を取り戻すべく、さまざまな努力が払われているそうです。古い建物なので、蔵書や貴重な資料の保管には苦心するところもあるそうですが、保存と継承とを大事に考えていることに好感が持てました。

（情報資料研究部 池田理恵子）

第8回 国立国語研究所国際シンポジウム 専門部会 開催のお知らせ

「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス： 対照言語学・日本語教育への応用」

国際シンポジウム専門部会「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス：対照言語学・日本語教育への応用」を下記のとおり開催します。国立国語研究所では、「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス」というデータベースを作成しました。これは、1) アジア諸国の日本語学習者が書いた日本語の作文 2) その作文を執筆者自身が母語（またはもっとも楽に文章が書ける言語）に訳したもの 3) 日本語の作文を日本語教師が添削したものという3種類のデータを収録し、インデックスをつけたものです。今回のシンポジウムでは、このデータベースを日本国内外の研究者の方にお配りしてその言語分析や、日本語教育への応用法について発表していただくことになっています。参加ご希望の方は下記へお申し込みください。

予 定 日 時：12月14日(木)～15日(金)

会 場：国立国語研究所（東京都北区西が丘3-9-14）

申し込み先：国立国語研究所日本語教育センター 宇佐美 洋

E-mail：smudr@kokken.go.jp

Fax：03-3906-3530

交通：

- 都営三田線 板橋本町駅下車 徒歩10分
- JR赤羽駅西口より国際興業バス 西が丘競技場行 終点 徒歩1分
- JR埼京線十條駅下車 徒歩20分

「ことばフォーラム」のご案内

日本語を学ぶ・日本語で暮らす

日時：平成12年11月11日(土) 午後2時から午後4時まで

場所：国立国語研究所 講堂 他

11月のことばフォーラムは、参加者の皆さん自身によりよく考えていただけるよう、「分科会形式」をとることにしました。「日本語を学ぶ・日本語で暮らす」ということをめぐる3つの小テーマに沿って、3つの部屋に分かれて話し合いをします。この話し合いによって、お互いに自分なりの考えを深めていけたらと考えています。

『「ことばの分析」を体験しよう』担当：井上優 他

外国の人に日本語について説明するためには、ふだん何気なく使っている日本語のしくみを少し意識的に考えることが必要です。簡単な例をいっしょに分析しながら、日本語のしくみについて少し考えてみましょう。

『異なる文化・言語と出会ったら』担当：石井恵理子 他

日本に暮らす外国人にとって日本語は大きな問題です。でも、日本語が上達すれば問題は解決するのでしょうか。ことばの問題の周りにどんなことがあるか、いろいろな視点からとらえなおしてみましょう。

『映像をつかってできること』担当：能波由佳 他

最近教育の中でも映像がよくとりいれられています。一方で「映像教材は使いにくい」という声も耳にします。映像にはどのような情報が含まれているのか、教育に利用するには何に気をつけなければならないのか、体験しながら考えてみたいと思います。



所内見学

平成12年8月1日（火）、北京外国語大学北京日本語研究センターの日本語教師の一行20名が、国際交流基金の同センター訪日研修の一環として、本研究所を訪れました。全員が

初めての訪問ということでしたが、本研究所については、刊行物を見たり、中国の大学等の先生から聞くなどして、多くの研修生が知っていました。印象に残った内容としては日本語教育映像教材、話し言葉・書き言葉などの研究などが挙げられ、また、「資料を利用したい」「中国の大学に研究や成果の紹介をしてほしい」「研究の指導や論文の助成をしてほしい」といったような意見、要望が出されました。